

日本記者クラブ会報

第319号
1996年
(平成8年)
9月10日発行

東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル 1001
◎社団法人 日本記者クラブ
電話三五〇三二七二二(代)

要人の会見予定続く

夏季セミナーに四百人

異常渇水のせいでしょうか、八月末の涼しさのせいでしょうか、東京ではいつもより早く、秋色が濃くなっています。



9月旗揚げを表明した鳩山由紀夫氏昼食会 (8.2)

例年、秋には海外からのVIPラッシュが続きます。今年も、九月になって、二日のリフキン・英外相を手始めに、クラウス・チエコ、メレス・エチオピア、ハワード・豪各首相やアラファト・パレスチナ自治政府議長、サンター・E・U委員長と会見予定が続く。さらに十月以降、コール・独首相、シラク・仏大統領ら首脳の来日が予定されています。

政局も、近づく総選挙をにらんで、緊迫感が増し、就任以来初めてクラブの会見にのぞむ、橋本龍太郎首相の昼食会が十一日に実現する予定のほか、各党の幹事長、書記長の皆さんからも話を聞くこ

とになっています。今秋は日本記者クラブのニュース発信基地としての機能を十分に発揮する時期と考えています。

八月のクラブ行事は一日二ビルカフス・ラトビア外相記者会見、二日二夏季集中セミナー、五日二渡辺治雄国立予衛生研究所細菌部長の研究会、八日二有森裕子さんを囲む会と上旬に集中、ゲストの数も六人でしたが、いずれも注目を浴びた会見となりました。

今年で二年目を迎えた夏季集中セミナーは、今年は政局の目、鳩山由紀夫・新党さきがけ代表幹事の昼食会で始まっただけに二百五十人の出席者を集めるなど、福川伸次・電通総研社長、宮内義彦・オリックス社長の話を合わせ、延べ四百六人が参加しました。そのうち、地方会員は二十八社、約三十人で、昨年より社数にして倍増の十四社、人数にして十人上回り、

盛夏の行事として定着した感があります。

また、アトランタから帰国したばかりの有森さんの会には二百十人という参加者が会場を埋めました。「まだ、荷物が手元に届かないので」とヒマワリ柄のブラウスにジーパンという軽装で現れた有森さんは質問に立った名だたる政治評論家たちの質問にも臆さず答え、出席会員たちを魅了しました。会見の内容は本号で特集しました。お読みください。

特集といえは、先号の「占領下の日本」はその後、執筆希望者が現れなかったため残念ですが打ち切ります。

クラブ創立に多大の貢献をした江尻進・元日本新聞協会専務理事が八月二日心不全のため死去されました。創立の一九六九年十月から八三年九月まで当クラブの理事、同六九年十月から七一年三月まで会員資格委員長を務め、今日の隆盛の基を築いてくれました。生前のご協力に感謝すると共に、ご冥福をお祈りします。

(専務理事 白木 東洋)

外国特派員協会

“金脈” 会見の舞台裏



サム・ジエームソン

あの出来事から二十二年近く経ったが、田中角栄氏が日本外国特派員協会（外人記者クラブ）を訪れた日のことを思い出すと、古い会員はなぜか今でも興奮を覚える。このことをいまだに記憶していて話題にする日本人も多い。

その日―一九七四年十月二十二日に至る過程とその日の出来事について、すべてを語った者はいない。田中氏が亡くなった今となっては、もうこの物語の完全版は期待できない。しかし、日本の政治史を変えたあの出来事について、もう一つくらい証言を残しておくことは意義があるだろう。

もし田中氏が、外人記者クラブに慣例どおりに来ていたら、辞任に追い込まれることもなく、少なくともあと二年は首相だったに違いない。そして、首相の座にあれば、七六年に米国上院がロッキード社の日本での秘密工作を暴露する前に、その機先を制することができたかもしれないのだ。

田中氏のプレスクラブ訪問に、私に関係したのは歴史のいたずらだった。一九六〇年代から原則として首相が年に一度はプレスクラブで記者会見に応じるといのは慣例になっていた。しかし、田中氏は七十二年十月十一日に来て以来、七三年、七四

年と二年続けて一度もクラブに来ていなかった。私は七三年七月からクラブの会長を務めており、任期が終わる七四年の六月三十日までに来てもらいたいと強く思っていた。会長として田中氏の昼食会のホスト役を務めたかったからだ。そこで七四年四月に新宿御苑で行われた観桜会で、数秒間のチャンスを生かし、私は彼の手を握りながら、早口で言った。「総理大臣がまだ外人記者クラブへいらっしゃっていないのですが、なにか、外国特派員がこわいでしょっか？」

田中氏は高らかに笑うと、「分かった！ 分かった！」とだけ言った。田中氏の後ろに、外務省の木内昭胤首席秘書官がいた。木内氏もクラブを訪れるよう首相を説得すると言ってくれた。私は任期が六月末までだと説明した。

しかし、日程の都合で六月三十日

以前には昼食会は実現しなかった。結局、田中氏が秋に計画している二つの外国訪問のはざまに昼食会は行われることになった。

田中氏のそれまでの政治活動（取引）に関する文春の「金脈」記事が出たのは、昼食会の日が決まった後であった。外務省の報道課から私に記者会見で出そうな質問について照会があった。プレスクラブでの昼食会以前に、文春の記事についてなんの声明もなければ、金脈問題について聞かれるだろう、と私は答えた。したがって、外務省と田中氏は、金脈問題について少なくとも一度は質問されることは、事前に分かっていたはずだ。

だが、外務省も、田中氏も、プレスクラブメンバーも、ハンガリー・ニュース通信社のベラ・エリアス特派員のゲスト紹介の内容については知るよしもなかった。

まるで運命の歯車が、すべて田中氏の思いと反対の方向に回り始めたようだった。私の後任会長のマックス・デスフォールはあいにく出張中

で、代わりを第一副会長のエリアスが務めることになった。デスフォーは感じのいい男だったが、ユーモアのセンスには欠けていた。だから、もし彼がゲスト紹介スピーチをすれば、エリアスの紹介ほどひどいことにはならなかっただろう。

実際、エリアスは、日本の首相を紹介するのにユーモアを交えていいものかどうか、事前に私に尋ねていた。エリアスが首相に対するユーモラスな揶揄と称賛とのバランスを取るものと勝手に思い込んでいた私は、彼に「ユーモア結構」と言った。この忠告は大変な間違いであった。

エリアスのスピーチはだらだらととりとめなく、ほとんど侮辱に近いものも含む嫌味の連続だった。彼のゲスト紹介を聞きながら、私は身の縮む思いだった。木内氏には後に電話で謝っておいた。

顔をしかめはしたが、田中氏はあからさまな抗議はしなかった。二人の記者が金脈とは何の関係もない質問をして、私の番になった。

彼の目を見るようにして、私は敵

意のないところを見せた。あえて国際問題の文脈のなかで、この問題を質問した。当時米国の上院が副大統領に指名されていたネルソン・ロツクフェラーの財政状態についての調査をしていたのを例にあげ、政治家の財政状態についての調査は妥当なのかどうか、また文芸記事の批判にどう答えるのかを聞いた。

田中氏は私の目を見て答えたが、怒っているように見えなかった。彼が単純に否定していたら、すべてはそこで終わっていたかもしれない。しかし、彼の答えは漠然としていたので、他の記者が金脈問題について続けて質問することになってしまった。さらに関連質問が二つ続いたので、木内氏が田中氏に会見を打ち切るよう合図した。

雑誌記事についての質問が多すぎると、不満をもらしながら田中氏一行は出て行った。田中氏の答えはあまりに漠然としすぎており、金脈問題での彼の発言をそのまま記事にするのは不可能だった。

日本の大新聞はそれまで「文芸春

秋」の記事や「金脈」スキャンダルについて書いたことはなかった。しかし、翌日、すべての大新聞がベラ・エリアスの紹介と金脈に関する四つの質問に飛びついた。いつもは無視している週刊誌からスキャンダルをとり込んだのだ。ゲスト紹介スピーチと質疑応答を詳細に報道し、日本の読者にはあたかも金脈問題が重大な国際問題になったかのような印象を与え、暗に田中氏退陣を促したのである。

まだ首相になりたてで、中国政府との国交を樹立し、日本のメディアの夢を実現しようとしていたころの田中氏は人気があった。しかし、このころには用済みともいわんばかりに、メディアの首相に対する対応は一八〇度転換していた。夜間中学しか出ていない田舎出の政治家の人氣は、色あせたものになっていたのだ。質問に立った時、私はまだ田中氏が話していない話題についてのコメントを求めただけだった。だから、日本のメディアがプレスクラブの会見を理由に、反田中キャンペーンを張っ

たのには驚いた。この気持ちは今でも変わらない。

当時の建設相・木村武雄氏のように、日本の首脳の中には、田中氏を追放するため外国特派員が陰謀を巡らせた、公然と発言するものもあった。米国の基準に照らしてみても、田中氏は最高の首相の一人だったと、現在でも信じている特派員の私には、このような非難は全くばかげてみえる。事実、田中氏は、佐藤榮作首相の待ちの政治の七年八カ月の間に山積した米国の経済的対日不満を、一年も経ないうちに解消してしまっただけだった。

結局、物語の真相は、政治評論家の森田実氏の批判に近いものだろう。すなわち、ほぼ十年ごとに日本の報道界はメンスになり、政治家の魔女狩りが必要とする。田中氏は一九七〇年代の犠牲者だった。

(原文：英文 訳・文真 編集部)
サム・ジェームソン会員 アシア・タイムズ記者。一九六三年から七一年までシカゴトリビューンの東京支局長。七一年から九六年までロサンゼルスタイムズ東京支局長を務めた。

厚生省 かいわれ説公表

ワーキングプレス

「断定はできないが、可能性も否定できない」

大阪府堺市で死者二人と六千人を超す発症者を出した病原性大腸菌O-157食中毒事件で、菅直人厚相は八月七日、同府羽曳野市内の農園業者が出荷したかいわれ大根を、原因食材と推定した発表を行った。

市場から、かいわれ大根が消えたパニックの幕開けでもあった。厚生省は過剰反応の火消しに追われ、菅厚相は報道陣を集め、大臣室でかいわれサラダを食べるパフォーマンスまでやった。

しかし、発表後の立ち入り検査で、名指しされた業者のかいわれ大根はもとより、業者の井戸水など施設周辺からもO-157は検出されず、パニックから覚めた社会の反応は次のステップに移る。

「シロじゃないか」。読者から厚生省批判の声も寄せられ、大手パソコン通信では、発表が中途半端だとして菅厚相の責任問題も議論され始めた。

「やっぱり、民に知らしむべからず、が安心できる」情報公開、地方分権が出来ると思う？ まだそこまで社会が成熟していないよ」

過剰反応を受けての厚生省幹部職員らの言葉である。相変わらずの官僚体質ではあるが、過剰反応は結局は、中央集権に支えられた官僚制度維持の逃げ口上を与えてしまった。私たちが

行政発表で記事化に安心感？

情報公開社会を目指す時に解決しなければならぬ問題が、一連のかいわれ騒動に凝縮されている。

「かいわれ説」に行き当たった疫学調査自体が、なじみのない手法であった。ここで詳述できないが、研究者レベルで「これ以外に説明がつかない」との結論である。あまり知られていないが、他の食中毒事件でも同じ

手法が取られ、原因推定されている。

この疫学調査をどう評価するか、非常に難しい問題である。分析に携わった研究者に取材すると、ほぼク口に近い印象を受ける。もし、「かいわれ説」の発表がなく、

小松健一

研究者からのみ取材したら、どう表現すればいいか悩むところだ。「厚生省が情報を隠している」とも書いて、かいわれ大根が原因との断定的論調になったのではないだろうか。

行政が中途半端な格好であっても公表したことは、逆に行政という権威を得て記事化に際して安心感があったのではないかと、と自問自答している日々で



かいわれを食べ安全性をアピールする菅厚相(8.15)=毎日

ある。

公表に際しての行政側の意図、公表後の行政の動きなどの検証も必要だ。O-157対策で、学校給食の衛生管理をめぐって厚生、文部両省間で、「かいわれ説」では厚生、農水両省間で対立の構図が見え始めた。国民の安全が省益にすり替わりそうな気配だ。

「かいわれ説」公表は、情報公開と報道姿勢を考える教訓にしなければならぬ、と考えている。

こまつ けんいち氏 一九八三年毎日新聞入社 阪神支局 大阪社会部を経て九三年東京社会部 今年四月から厚生省担当

五輪爆弾テロ

ワーキングプレス

奇妙な光景だった。アトラクタの五輪公園爆弾テロ事件の「捜査の焦点」と名指しされた男性が、自宅アパート前にうずくまって何時間も動かない。早朝からアパートを家宅捜索しているFBI（米連邦捜査局）は現場で「彼は逮捕されていないし、告発もされていない」と言明しながら、男性の車や銃器を持ち去った。遠巻きにした約三十台のカメラ、百五十人の報道陣が「焦点の男性」連行の瞬間を待ち構える——。この現実をどう伝えればいいのか。戸惑いを覚える事態だった。

爆弾テロ事件発生は、七月二十七日未明（現地時間）。五輪公園から三百メートルほどの宿に帰った直後、だれかが部屋のドアにぶつかつたような軽い衝撃を感じた。すぐにサイレンの音が響き始め、プレスセンターに残っていた運動部員から「公園で爆発のようです」と連絡が入る。運よく（？）公園入口近くを通りかかった外信部員、プレスセンターから現場に飛び込んだ写真部

員が迫力ある雑観取材に成功していた。

三日間の閉鎖の後に公園が再開された三十日、地元の日刊紙が、「捜査の焦点が絞られていく」として男性を名指しした特ダネ記事を掲載した。男性は、事件の際に爆弾の存在をいち早く周囲に伝え、避難を促したヒーローとしてテレビにも登場したガードマンだった。

直接取材で実名報道を回避

兼村 博

FBIが当初、男性を犯人像にびつたり的人物と考えていたのは間違いない。「警察をクビになった後も警官として振る舞ってトラブルになった」などとする横顔とともに、米国マスコミあげての実名による「容疑者報道」となった。

だが、根拠が薄かった。地元紙初報の根拠は「男性の説明通りなら、テレビ局が撮った映像に彼が写っていないのは不自

然」というもの。後に①予告電話と声紋が一致しない②家宅捜索で証拠が得られない——などの理由で容疑は否定の方向に向かい、FBIが「公開謝罪する」と伝えられる事態になる。

騒ぎが始まった三十日夕、電話帳からアトラクタ郊外の「男性の母親の家」を割り出し、「だめもと」で記者一人を出した。これが前述のアパート。地元テ

レビ数社が来ており、郡警察が警備に当たっていた。やがて男性が帰宅し、「私は容疑者ではない」と語る一方、夜に入って弁護士が、男性がFBIから数回の事情聴取を受けたことを認めたと上で「FBIは間違っている」と声明。ここで当事者に直接取材したことで、外電の転電による安易な容疑者報道に巻き込まれずにすんだ半面、自らの判断を迫られることになる。

翌三十一日朝、現場の「国際的張り込み」は一気に百人以上に膨れ上がった。日本のテレビ局の姿もある。報道陣の目前で丸一日行われた家宅捜索。だが、この日を過ぎると、男性の容疑を疑問視する報道が出始めた。

米国のマスコミも、この見込み違いには慌てたようだ。数日後、CBSテレビから「共同が実名を出さなかつた理由は？」という趣旨の取材を受けた。

かねむら ひろむ氏 一九七三年共同通信入社 高知支局 大阪社会部などを経て 九四年から社会部次長



「焦点の男性、宅前に詰めかけた各国取材陣—共同

クラブゲスト

夏季集中セミナー

● 8月2日(金) ●
21世紀に向けた
日本の
ビジョン

鳩山 由紀夫 新党さきがけ代表幹事

「ソフトクリームは夏場のおいしい時期に」と語る鳩山氏。地方から出席した会員にサービスしてか、新党旗揚げの時期を初めて明確にするなど、各紙、各局が大きく扱うニュースを提供してくれた。

福川 伸次 電通総研社長

二十一世紀の世界がどのような方向に向かい、日本はどのような対応すべきかを語った。

NIES、中国、ASEAN諸国などと、先進国の差がさらに縮まり、ポーターレス経済の下で、富の平準化が世界的に進む。そうした中で、



セミナー(1) 昼食会
司会 神志名泰裕委員
岸井成格委員
出席 215人

「新党ないし新党準備会として臨時国会前に姿をみせていく」として、九月には事実上の旗揚げをする、と

言明。リベラル96や創志会にも呼びかけるとし、菅厚生相や横路、海江田両氏の名前も具体的に挙げた。「あくまで個人ベースで動くことになる。政治の閉塞状況を打破するには

米国を軸に各国がそれを支える国際政治システムの構築を、日本として求めていくべきだろう、と。

世界経済のポーターレス化と同時に情報技術革命が、次世紀の特徴になるので、個人の知的イノベーションが発揮できる環境を、どう確保していくかが大きな課題だと言う。戦後



セミナー(2)
司会 宇治敏彦委員
出席 104人

既成政党の組み合わせを動かすだけではダメだ。自民、新進党からの参加も排除しない」と。政策の柱として行財政・教育改革を挙げ、政治のリーダーシップを強調し、「過去の歴史の反省にたち歴史認識や憲法の精神に沿った安保政策も掲げたい」とも。

裏腹な展開 「今日の話を聞いても、新党の具体的なイメージが浮かんでこない。特に、若手議員や若者をどう引き寄せていくのか」との質問に、鳩山氏は「世代交代に即すようなものをつくらなければ意味がない。ただ、最初から若い世代向けのことはかり言うと、そうでない人からの反発を受けるので」と。『排除主義』はとらないと語った鳩山氏。三週間あまりで、武村党首にはご遠慮願う、との皮肉な展開に。(8・2)

の成功と繁栄を支えたこれまでの日本型システムに代わる、新モデルを求めなければならない、と。

とりわけ情報通信分野ではタイミングの遅れが命とりになるとして、「人によっては五年から二十年遅れているといわれる。この領域にもっと注意を払わなければならない」。

宮内 義彦 オリックス社長



セミナー(3)
司会 藤原作弥委員
出席 87人

行革委員会の規制緩和と小委員会座長を務めている。急速に進む高齢化、赤字国債の増加、労働人口の減少などで「富の生産」が縮小していく。

しかも富の分配に国が関与する比率を示す国民負担率が五〇パーセントを超え、二十一世紀の日本は停滞社会に突入しかねないと警鐘。それだからこそいま「企業の四三パーセントが何らかの規制の下にある」産業界が、活力を取り戻すため規制緩和を進める必要があるのだと言う。

昨年、対象五十七項目を小委員会を選び、各業界に相当なインパクトを与えた。「今年中に担当省庁から返ってくるはずの答えを待っている」とし、不十分な回答なら勧告権を行使する可能性もあると述べた。

新聞の再販問題については、「論点公開で二度取り上げたのは新聞を含めて五件だけ」と言い、小委員会として重視していることを示唆した。

ク ラ ブ ゲ ス ト

ヴァルデイス・ビルカフス ラト
ビア外相



8.1 (木) 記者会見
司会 石川 太郎 委員
通訳 小松 達也
出席 43人

九一年の独立回復後の連立政権で首相を務め、九五年の総選挙で誕生した現政権で外相に。法律専門家で、政界引退後は大学の教壇に戻るのが希望という。

九二年に一〇〇〇%あったインフレ率が、今年は二〇〇%程度になるとの見通しを示し、「タフで安定した金融政策の結果、投資環境は着実に好転している」と、経済再建に自信を見せる。そのうえで、「米、独との合併が六百件であるのに対し、日本との合併がわずか三件にとどまっている」と指摘、日本からの投資を呼びかけた。

NATOへの加盟問題については「現在ラトビアは安定しているが、将来の保障はない。我々は安定を急いでいる」と言い、早期の正式加盟を求める姿勢を示した。中立政策の

故にソ連邦に組み込まれた過去を教訓に、欧州へ積極的に接近。ロシアの脅威は否定するが、「大統領選後もロシアのゆくえは不透明だ。エリツイン・レベジの関係は大きなナゾ」とも。そして、現在準メンバーのWEU（西欧同盟）についてもフル加盟を希望するが、「NATOの代替にはなり得ない」と。

渡辺 治雄 国立予防衛生研究所
細菌部長



8.5 (月) 研究会
「病原性大腸菌:O-157」
司会 長沢 光男 委員
出席 87人

厚生省が急きよ設置したO-157調査班の班長代理も務める。来日した米疫病管理センター(CDC)職員との意見交換直後にクラブに駆けつけた。

スライドを利用しながら、O-157のタイプや特性を中心に、感染源などこの時点で分かっている点について述べた。

冒頭、「公衆衛生の向上、抗生物質の登場で感染症を撲滅したとの錯覚

に陥っている。世の中がキレイになりすぎ、日本人はクリーン神話にとらわれているのでは」と。

九一年からO-157による感染は年間百件ほど常時報告されてきたが、集団事例はなかった。「今回はこの菌が給食ルートに入り、患者数が増加したため、急に蔓延したとの印象を与えることになった」。

人類は病原菌を撲滅しようとしたが、成功したのは人間だけがわかる天然痘のみである。動物内でも繁殖する菌にはワクチンで対応せざるを得ない。「米国ではO-157の抗体をつくるワクチンが効くとの実験結果が出ている。菌の変異のスピードは速く、抗生物質が効かない時代になる。菌との共存を模索するような発想が必要になる」。

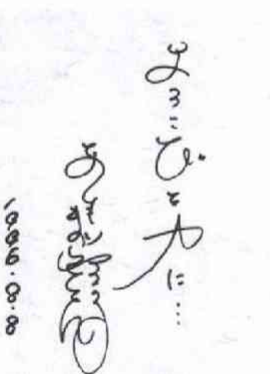
有森 裕子 選手

バルセロナの銀に続いて、アトラントでも銅メダルを獲得した有森選手。大好きな花、ヒマワリ模様のシャツにジーンズ姿で現れた。レース中のある笑顔とゴール後のコメントを多くのコラムが取り上げたが、この日の会見でも印象深い発言が続いた。

無名だった有森選手の素質を引き出した小出リクルート総監督も同席。最初の出会いかからメダリストに育てるまでのエピソードも披露した。

女性のスポーツ選手として、初のクラブゲスト。最後に司会者から、「これはクラブからの金メダルです」と、NKCマークの入ったパーウエートが贈られた。

(内容を九十六ページに収録)



8・8 (木) 懇談会
司会 今井 彬 委員 出席 210人

気象記者の目

気象庁の記者クラブが一番活気づくのは台風と大地震だ。この二つがくれば、休日だろうがポケットベルが鳴り、家を出る。

大きな台風が首都圏に近づくと、ふだんは閑散としたクラブから、おげさでなく人があふれる。上陸前の台風は、たいていが初心者自転車の乗りのように、ゆっくりふらふらしながら近づいてくる。不思議に朝刊締め切りぎりぎりに上陸が迫ることが多く、深夜に記者たちが、「もう上陸してるんじゃないの。上陸した、でいいね」などと担当者に詰め寄る姿は、振り返れば我ながら情けない。

大地震は本当に忘れたころにやってくる。一九九四年の御用納め、十二月二十八日夜に起きた三陸はるか沖地

震(八戸で震度6)の際には、記者会見には、記者会見のぞんだ気象庁担当者がみんな赤ら顔をしていて(取材する側ももちろん)、地震の予知が難しいことを身をもって証明した。

今夏には、八月十一日早朝に宮城県北部で震度5の地震が相次いだ。ちょうど休刊日の朝で、気象庁から緊急記者会見の通知をするFAX連絡の認知が遅れ、私を含めて記者会見への出席が遅れた記者が多かった。気象庁の震度誤報などが問題になったが、報道側の緊急態制の問題も明らかになった。

気象の取材をするようになってよくわかったのが、天気予報をあてるのが難しい、ということだ。天気予報や前日聞いた予報官の話を参考に、家を出がけに「今日はカサがあるぞ」などと教えても、夜にはたいてい「荷物になったじゃない」と文句を言われるはめになった。予報にない雨が降った日に、あまりかなくて予報官を訪ねると、窓の外を見ながら「朝から胃が痛い」と力なく話した。別の予報官は、「晴れの子報だろうが、毎日折りたたみガサを持ち歩いているよ」と笑っていた。

朝日新聞社会部 藤井 達哉

休刊日に震度5

難航を極めた自民党の群馬県小選挙区公認調整問題は、七月十八日未明、ようやく決着した。平成七年一月に群馬県連が党本部に調整を一任してから、決定まで一年半以上が経過していた。「しょせん、自民党内のコップの嵐」との声もあったが、保守王国と言われる群馬では、代議士の命運をかけた「国取り合戦」は支持者にとって最大の関心事。政治部にとって一大イベントであり、より正確で、タイムリーな記事が求められた。

調整がヤマ場を迎えた七月以降、本社政治部、東京支社報道部の記者、カメラマンが連日、自民党本部に通いつめた。調整の生の動きを伝えるため、決定までの約一週間にわたりドキュメント「直前、小選挙区調整」を連載。田派閥を代表する選対小委員の談話などから対立点を明確にし、代議士や後援会幹部、系列県議のその日の動き、発言などを刻々と追った。本記に盛り込まない要素を細かく拾い、

群馬発

記事にすることで、党執行部の苦悩、代議士の不安などを浮き彫りにするように努めた。

中曽根康弘元首相、小淵恵三前党副総裁、福田康夫代議士の有力三氏の争いで注目された旧群馬三区は、中曽根氏の比例代表「終身一位」で決着した。裁定後、中曽根、小淵両氏ががちりと握手、福田氏も中曽根氏の事務所を訪れるなど表面的には円満解決したかにみえるが、

“福中戦争”最前線

現実はその単純ではない。三氏の攻防は、長年の仇敵である中曽根・福田両陣営が連携した小淵包围網、その後の福中連携の破綻とめまぐるしく展開し、揺れ続けた後援会間に深刻なしこりを残した。

裁定直後、「夏政局 近づくと総選挙」を連載。混乱に陥る各陣営の動きなどを追った。中曽根氏は四十年來の上州福中戦争について「昔の台風。熱帯低気圧になってしまった」と語った。だが、現状を見る限り、台風の猛威はまだまだ衰えていない。

上毛新聞東京支社報道部次長 萩原 哲

有森裕子選手を囲む会

喜びを力に四二・一九五キロ

司会 真ん中にいらっしやるのが有森裕子さんです。ようこそお越しくださいました。お隣がリクルートランニングチームの小出義雄総監督です。名伯楽で、有森さんを育てられた方です。おめでとうございます。

私、今日の進行をつとめます、企画委員の今井彬です。まず冒頭、私の方から一、二、質問させていただきまして、あとは会場の皆さまからご質問いただくという形式をとります。それでは、まず有森さんにうかがいます。アトラクタオリンピックに参加されたの感想といえますか、全体を通じての印象などをお話いただけますか。

「ボランティアのサポートに感動した」

有森 アトラクタには七月二十五日に入ったのですが、そのとき本当にアツと思ったの

です。その前に試走に四回ほど行っているのですが、そのときは空港も町もすべて工事が多くて、人もなんとなくオリンピックという雰囲気ではなかった。ある意味で暗い感じがあったのですが、今回、空港に着いてみて、「ここまで一生懸命変えたんだな、用意してくれたんだな」ということを実感しました。空港だけでなくいろんなところで、ボランティアの人が世話をしてくれます。お役所仕事の人たちではないのです。初めてオリンピックに参加できて、それがすごくうれしい、という気持ちを表に出した役員の方や、普段は学生だけれども、今回ボランティアに申し込んで、この大会に参加することができたという人たち。本当に私たち選手と同じぐらい、この大会に参加できてうれしいという気持ちを表現した人たちがサポートしてくださっている、という雰囲気がすごくありました。

期間中は、私はほとんど自分のコンディション作りとかで、選手村の雰囲気を味わうことはできなかったのです。二回目なのですが、オリンピックというのはいい意味で、高い意識を持った競技者たちが、高い水準で争って、喜んだり悲しんだりして戦える、そして戦っている中にも平和な部分が見える、そういう場所なんだな、ということも感じるようになりました。

司会 小出総監督は最初に有森さんを、自分の生徒というか、弟子として見て、「これは大変な名馬であるぞ」とお思いになったのですか。

「選手でダメなら寮長として使える」

小出 実は大学時代の記録も高校生の記録よりも遅いし、当時はいまと違ってふつくらして髪の毛が長く、「これでマラソンができるのかな」という印象でした。それで、最初に彼女が訪ねてきたときに返事はしなかった。「来い」とは言わないで、話だけ聞いたわけです。

と言うのは、やはり企業ですから、選手としてきてもらって記録が出なかつたりしたら、本人もつらいし、我々もイヤな思いをすることになるわけです。そういうのがありま

すので、一回目は返事をしなかった。

そうしたら、またしつこくきまして、どうしてもリクルートに入りたい、ということでした。その二回目でも、返事をしなかったら、こんどは大学の先生、私が昔からお世話になった先生から手紙が届きました。

その手紙に、いろいろ書いてありました。大学時代に寮長をやっていたとか。だから、この子はもし記録が万が一伸びなかったら、寮長としても十分に使える、ということですよ。それで、私もいいかげんなところがございまして、「よし、しっかりしたのが一人来てもらえたら助かるな」というような、軽い気持ちでOKしたわけです。

走るのには本当に真面目でした。練習が始まってから終わるまで全力投球なのです。しかし、記録はよくない。五月の大会では八百、四百メートルに出したが、中学生の記録よりも遅い。「困ったな、これは入ってもらったけど、どうしようかな」と正直思いました。

それで、八月か九月だったね（有森選手に確認するように）、富士見高原に合宿と一緒に行って、「やる種目がないから、今日は長い距離を走ろう」と、ちょっと試してみた。そうしたら、日本で当時十位ぐらいだった女の子と一緒に約五十キロ走ったのですが、最後の最後まで競り合って二、三メートル勝った。

「あれっ」と思いまして、もしかしたらここに能力がある、ということ、たったその一回で、この子のチャンスが生まれてきたわけです。

それからはもう我が子ではないですから、どうなってもいいですから、どんどん走っていただいて、どんどん細くなってもらった。帰省のたびにお母さんが泣いたそうです。そこまでやったうえで、有森に「初出場の大坂マラソンで、初マラソンでの新記録が出るぞ」と言って、走らせた。それで初マラソン新記録。この一発なんです。どこに才能があるかわからないもんですね。

司会 ありがとうございます。なお、総監督のヒゲは、これは縁起をかついで剃らなかったのだそうです。

それでは、これからは会場の皆さんからの質問を、できるだけ多くいただくと思います。

「メダルは黄色の袋に入れている」

用瀬（日本テレビ） 銅メダル本当におめでとうございます。帰国されて二日たったのですが、まわりの方の反応をどんなふうに受けとっていらっしゃいますか。

有森 自分で想像していた以上に皆さんに

喜んでいただいているわけですから、あまり自分の中では驚きとか、そういうものではなく、かえって、しっかりしなければというか。前回の教訓もあり、わりと落ち着いた目で、変わらない自分で対応できているつもりです。

司会 メダルをお持ちいただいているので、ちょっと、それを皆さんに見せていただいけませんか。黄色いきれいな袋に入っていますね。それもアメリカでもらったんですか。

有森 今回は木箱に入ったメダルをいただいたのですが、この袋はこんどオリンピックに参加するときに、地元は岡山なのですが、身障者の子供たちがいて、その子供たちがオリンピック選手にぜひ何かしたい、ということとで贈ってくれたものなのです。三十枚ほど自分たちで袋を作ってくれたのです。柄も色々いろいろでこの大きさなのです。

ぜひ使ってほしいということで、私の両親が預かってきて、選手村でそうしたメッセージを付けて配りました。

司会 そうですか。メダルの方が全体的に足りませんでしたね。三十枚あるのに。

有森 メダル入れでもなんでもいいんですけど、ぜひ使ってほしいということだったので。

司会 会場から思わず拍手が出しましたが、ちょっと司会者の特権でメダルを持たせてく



はにかむような表情でメダルを見せる有森選手
左は小出総監督

ださい。アメリカンサイズというか、ちょっと大きいですね。
有森 前回のバルセロナよりも、本体は大きいです。

林(毎HOB) 私は、今日、六十年前のベルリンオリンピックのときのマラソンの記録を確認してきました。あのときは日本選手は大活躍で、水泳選手は水泳日本の名をほしいままにし、陸上競技でもずいぶん活躍しました。そしてマラソンでも一位と三位をとりました。ただし、そのころはまだ朝鮮半島が日本の植民地でした。一位になった孫基植さん、それから三位になった南昇竜さん、いず

れも韓国の人だったんですね。

ところが、一位の孫基植さんの優勝記録はいくらかと申しますと、ご存じかもしれませんが、二時間二十九分十九秒。有森さんのこんどの記録は二時間二十八分三十九秒、なんと有森さんの方が四十秒速いですね。ですから、有森さんが六十年前のベルリンオリンピックに出られたら、男子選手たちを制して堂々金メダルを獲得されたと思いますね。

これからがやつと質問ですが、有森さんは四年前に銀メダルをとられて、今度は銅メダルをとられた。ダブル・メダルの偉業を達成されましたが、有森さんをダブル・メダルの偉業へと駆り立てたものは何であったか。有森さんの心の中で、こんどのメダル獲得に駆り立てたものは何であったか。その点をお聞かせいただきたい。

「銀の後の四年間をムダにしたくなかった」

有森 前回のバルセロナの銀メダルは、本当に自分自身予想もしていなくて、すごくうれいものでした。その後、何の思いでここまで来たかという、バルセロナが終わってから四年間、いろんな形で走りもしたけれども、止まった時期でもあったし、いろいろ考えた時期でもあった。本当に長かった四年間

でした。

もう一度、私がマラソンに戻ってこれたのは、やはりその四年間いろいろ考えたり、その中で自分が口にしてきたこととか、そういうものを無駄にできなかった。無駄にできなかった銀メダルを、もう一度自分の中にきちんと生かすことになるのではないかと、という思いがあったからだと思います。それが一番、今回のオリンピックの場で、もう一度頑張れた力になったのではないかと、思っています。

司会 小出総監督にうかがいますが、孫基植さんの二時間二十九分十九秒よりも速かったわけですが、その当時お出になつたらどうなつたんでしょう。やはり優勝できたと思いにありますか。

小出 食べ物とか、道路事情とか、シューズの良し悪しとか、いろんなことがありますから、記録だけでは判断し難い。二十九分というのは当時としてはものすごく速かつたと思います。一九五二年のヘルシンキ大会のザトベックの優勝記録が二時間二十三分ですから、六分しか縮まっていない。

もちろん、コースにもよります。ただ、やはり今回のアトランタのコースというのは、世界のいろいろな大会を見まして、一番難コース、タフなコースであったように思います。

伊藤（共同OB） 私事ですが、私はちょうど五十年前に全日本の一万メートルで優勝し、箱根駅伝を二度走っております。一回は慶応のアンカーで、十区を走りました。もう一回は山登りの予定だったのですが、オーバークで膝を痛めまして八区に変わったという経験があります。私なりに当時一生懸命練習した記憶があるのですが、難コースであれだけの見事なレースができた、その裏付けとしてどのような練習を中心にしたか、その一端をお話いただきたい。

もう一つ、コロラド州の高所でトレーニングをやりました。あれは心肺機能を高めるのに非常にいいのだけれども、練習は、酸素が薄くて、非常にきついと思うのですが、どういうことをしたのか。

有森 今回は前回ほどスピードとかを重視するよりも、足作りをとにかくしなければいけない、ということが監督の練習メニューの中にもありました。アップダウンに対応するため、疲れない足を作ろうというので、わりと同じようなアップダウンを想定して、スピードよりもそこをしっかりと最後まで走り切る、そういう練習を主にしました。

もちろん、足作りをした後にスピード練習をしたりとか、そういう内容も入れたのですが、主体はゆっくり長く、上りが苦手なので、

上りを苦手と思わないように走る、ということが中心でした。

高地トレーニングということで、前は六〇〇メートルぐらいのボルダーという町でやったのです。前回と同じことをしては、今回は立ち向かえないということで、千メートルほどあげて、二六〇〇メートルぐらいの場所です、とりあえず寝泊まりの生活から慣らしたわけです。トレーニングもゆっくりしたペースでも、軽い練習でも、そこでやって行こうということでした。確かに高所なので、かなり体はきついのです。生活をしていても、私はあまり感じなかったのですが、監督は寝苦しいとか、歩くのもつらいとか、いろいろ空気が薄い関係で、かなり苦労したみたいです。

ここでは、もう少しスピードが出せるはずなんだけれども、どうも出ないとか、足がすぐ疲れ、終わったあとに倒れるぐらいになっってしまうなど、やはり一六〇〇メートルで練習したときよりもかなり苦労した。ここは高地だから、この程度で良いのだと、体で理解をするまでに時間がかかりました。

司会 総監督はコーチの立場でいかがでしたか。

「ギリギリの限界まで追い込んだ練習」

小出 いつも選手に言っているのは、ありふれたことなのです。「今日はこれだけ練習をやったからいい」のではなく、「メダルを取らなかったら、メダルの取れる練習をしなければならぬ」と。

アフリカ勢の足の長い、三〇〇〇メートル、四〇〇〇メートルに住んでいて、日本の選手なんかよりもはるかにすぐれた血液や心肺機能を持っている、そういう人たちに勝つには、それ以上の練習をやらなければいけない。ですから有森は、とにかく世界一の練習をやらなかったらメダルを取れない。

ここでお話をすると、本人はまた後で怒りますが、実はレースの一カ月前には本当にかわいそうだった。朝練習が終わって、自然に涙が出てくる。「どうした」「みんながよくしてくれるのに、思うようにいかない」というわけです。それを「しようがない。高い所なんだから。アトラクタのコースを七回走っているんだから、最初から終わりまで全力で走っても、絶対につぶれない。心配するな。ものすごく暑くなって、四〇度から四五度ぐらいになったら、最初から全力で行け。お前はつぶれない。勝てる。気温が低かったら、み

んなのペースが速いから後ろで行って、チャンスを見て前に出て来い。どんなに飛ばしてもつぶれない自信を持って行きなさい」と励ましたんです。

「有森裕子が夜カタツと起きたら、みんな見ておいてくれ。どこかへ行ってしまいかもしれない」とマネジャーとかに話したくらいです。そこまで練習をやってもらったんです。

本当にもう、これは追い込まれたような状態でした。私は酒を飲んでいましたのでそんなことはありませんが、本人は大変だったと思う。一歩間違ったら本場にどうなるか、大丈夫かな、というところまで追い込んで、それに打ち勝ったから立派なレースもできた。やはり裏付けは、あのレースができる練習を彼女はやってくれたのです。

高地で朝日があがってくるのを見ながら、暖かいなあ、太陽はありがたいな、こんなにエネルギーをもらえた、と祈っていました。

そういう気持ちで、彼女は半年やった。ですから、アトランタに入っても、それこそ大変でした。もうピリピリしていました。

ところが、それがいろんな方とお会いしているうちに、ガラッと変わりました。バルセロナのときもそうだったんですが、当日になると不思議な子で、「今日はさわやかだ」というんです。前回と全く同じなんです。実はあ

の日は午前二時に二人で起きたんですが、一睡もできませんでした。一睡もしていないんです。でも、有森はいい顔で輝いていました。だから「心配するな。人間、二日や三日寝なくても戦えるよ。みんな同じだ。胸を張って堂々と走ってこい」と言ったら、本当に堂々と走ってきたんです。

「沿道のいろんな人の声援がうれしい」

伊高（共同） オリンピックは都市の開催ですが、選手には、国歌、国旗と常に国が付きまとい、新聞も国別メダル数とかを書きます。有森さん自身、閉会式で旗手をつとめられました。昨日は橋本総理から祝福を受けました。有森さんはスポーツ人個人として、国との関係を、個人と国をどのように位置づけられているのか。

有森 国際大会とか、オリンピックに参加していつも思うのですが、確かに私は日本人で、日本の国旗をつけて出場していますけれども、私自身は、これは本場にどうとられるかわかりませんが、関係ないんです。「私は有森裕子であり、たまたま有森裕子が日本人である」ということです。だから応援も、日本人の応援がうれしかったという言い方よりも、本当に沿道の人たちの応援がうれしかっ

たという方が正確なのです。そして、それがすべて力になった。

だから、国とか、そういうことが最初に出てくるのではないのです、私にとっては。

司会 始まる前に、恒例により揮毫していただいたのですが、それがこれです。「喜びを力に」（七ページ参照）。有森さんの好きな言葉なんだそうです。

今井（産経OB） 最高の精神力、最高の練習量、最高の天候、最高のシューズなどといった諸条件がすべて満たされた場合、記録はどのくらいまで、限界ぎりぎり行けると思えますか。

有森 条件がすべて良いというのは、本人がどう考えるかだけだ、と思うのです。だから、どれが一番良い状況で、どれが一番良いシューズで、どういう気候が一番良いか、というのには、本人が良いと思えば全部力になることです。私は、全部そろった上でどういう記録が出るかというよりも、どうそれを感じ取ったか、ということと記録が左右されると思っています。今回はこれが一番――。

小出 ちょっと余談になるかもしれませんが、有森が北海道マラソンを走ったときに、練習が思うようになかった。そのとき、「有森な、苦しくなったら道路に、道路を作ってくれた人ありがとう、ありがとう」と

頭を下げて行きなさい。感謝して行け。もっと苦しくなったらシューズが見えますから、シューズを手作りで作ってくれた人に、ありがとう、と頭を下げる。そうしてもっと苦しくなったときには、応援してくれる人たちに、本当にありがとうございます、と頭を下げなさい——こんなことを言ったのです。

頭を下げるとちよつと前傾しますから、ストライドが二センチぐらい大きくなっていく。苦しいのを忘れてしまふ。ありがとう、ありがとうと言うたびに速くなっていく。ですから北海道では新記録が出ました。

そういうふうには、本当に苦しくなつたときに、みんなが応援しているのを思い出すと、どんどん練習ができます。記録というのは、練習によってどんどん、どんどん変わっていく。おそろく近いうちに、うちの選手あるいは有森はちよつと休みますが、二時間二十三分はすぐ出る。二十一分もまもなく出ます。

この二十一分という世界記録ですから、世界記録は日本人がすぐ出るところまできている。二時間十六分ぐらいは、まもなく出ると思います。そうすると、この間のロバには軽く勝てる。ですから、記録は、その二時間十六分なら十六分の練習を、どういうふうにして探すかなのです。これを探したらずく勝てる。

司会 例えば、今度は相当な技術的な進歩があつて、有森さんが着るウェアも三〇何度用とか、二五度用とか、いろいろあつて、気温に対応できるように考えてあつたそうですね。ところが、現実のコンディションは二一度で、湿度もそんなになつた。そのときにどういふ対応をされたのですか。

有森 ユニフォームは大きなメッシュと小さなメッシュのを用意してました。当日はいつもよりは寒いということで、大きめのメッシュはやめて、細かいメッシュの方を使いました。

「ソックスなしの試走でマメができた」

上田 (日刊工業OB) 有森さんは、いつも何足ぐらいの靴を慣らしているのでしょうか。その中から、試合当日にどういふふうにして一足を選ぶのでしょうか。

有森 かなりのシューズを試し履きとか、使わせていただいています。一足のシューズを、早いときは二、三日で履き潰してしまふ。その中で、いろいろなタイプのものを試してみ、最終的に選ぶということになるので、一つのタイプを三足とか五足とかということになる。結局、種類の的に四種類あれば、それでもう二十足ぐらいになつてしまふ。

レース当日に履くものは、最後の合宿とか、追い込みのときに、一カ月前ぐらいのときに履いてみて良いと思つたものです。まずその一足が決まれば、また同じタイプのものを四足ほど作ってもらつて、何度か確かめて最終的に当日履く。

当日履く靴というのは、何回も履いているというか、同じタイプのものがありますから、その靴自体は初めて履いても別に問題はないのです。ただ、ウォーキングとかで履くことはあるのですが、実際走つて、その日に使うということはあまりない。

司会 フルマラソン全部走つてしまふと、相当減るものですか。

有森 靴底自体は減らないのですが、弾力性とか、バネがなくなる。私たちはよく言うのですが、靴自体がへたつてしまふ。そういう、レース用に作られたシューズですので、本番を走る前からレースみたいに使つてしまふと、当日は全然違うものになつてしまふ。

司会 監督さんに一つおうかがいしたいのは、今度ソックスを、靴下を履く、履かないという問題がありましたね。あれはどういふふうにかえたらいんですか。

小出 有森も最初は「靴下を履かない」と言つていたのです。

私は長年、四十何年かけっこをやつていま

すので、夏のアップダウンのきついコースと
いうのは、足がむれて必ずマメができると思
っていた。でも、本人は「バルセロナのとき
は履かなかった」。確かに履かなかったんで
す。バルセロナのコースはほぼ平らなんです。
あとは昇りをちよこつと行くだけなんです。
ですから、マメができない。

ところが、アトラントはグラランドの中だけ
が平らで、あとは全部アップダウンなんです。
これは危ないなと思ったので、一カ月前の試
走のときにやらせてみたんです。

人間というのは、理屈で言っても、実際に
体で覚えないとわからない。そうしたら、みご
と、最初のうちはよかつたけれども、こんなに
大きなマメができました。それで、二人でよ
く話し合って靴下をはくことにしたんです。

アトラントのコースは斜めになっていると
ころがあつて、舗装も硬いコンクリートなの
です。硬い所を走るときに、どうしても感覚
的に柔らかいシューズを履きたがるのです。
ところが、それは疲れるんです。足首が疲れ
る、膝の上が疲れる。それで、今回は少し硬
めのシューズにしたんです。

ですから、走り終わったときに、有森のシ
ューズはいつも一回でほとんど減つてしま
うのが、ほとんど減つていなかった。きちつと
平らになっていました。

観客の雰囲気で追走者に気づいた

伊波（朝日OB） 三十キロのところでは
パートされました。結果論かもしれませんが、
最後はカトリン・ドーレ選手に非常に接近さ
れた。ガラスメダルぐらいになってしまふの
ではないかと、肝を冷やしましたが、あのス
パートは、いかがだったのか。それから外国
の選手は、その後の男の場合を見てみても、
後ろをしょっちゅう振り返ることが結構多い
のですが、日本の選手は毅然として後ろを振
り返らない。それで、ドーレ選手に急接近さ
れた面もあるのではないか。

有森 三十キロからわりと良い下りが続く
んです。試走のときも、そこが一番自分自身
が得意とする場所であつたし、一歩波に乗れ
る場所であつた。監督に、「とにかく、お前は
下りが得意だから、ここで頑張れ」と言われ
ていました。スパートをかけろという指示で
はなかった。「ここで、自分の得意とするもの
を最大に生かせ」と言われていたのです。ど
ういう状況でも、ここは全力で行くしかない、
それが三十キロ地点であつた。
だから、前を追いかけたという意識よりも、
自分が本当に頑張るポイントがきたという感
じでスピードを出して、見た感じ逃げるよう

な形になったのです。

ドーレ選手が後ろから来ているというのを
知ったのは、グラランドに入って二百メートル
ぐらい走ってからです。グラランドに入る前に、
監督がすごく叫んでいて「後ろが来ているか
ら逃げろ」と言うんです。私は、前にエゴロ
ワ選手が見えていたので、「前に追いつけ」と
正直に言えばいいのに、何でわざわざ遠回し
に「逃げろ」と言うんだろうと——普段あま
りストレートにものを言わない仲であるし、
そう指導されているので、変なかんぐりをし
てしまつて——でもとりあえず最後まで全力
で行かなければいけないという、最終的には
その指示だな、というふうに着いてスピ
ードは出したのです。まさか、本当に後ろか
ら人が来ているという受け取り方ではなかつ
た。

なんとなくイヤな雰囲気になったのは、グ
ラランドに入ってからです。観客の方が、私だ
けが入ってきたのを励ますというのでなく、
妙にすごくエキサイティングしているような
雰囲気だったんです。私一人しか入ってきて
いないはずなのに、何でこんなに、エキサイ
ティングするのだろう、と思つて、もしかす
ると、とイヤな予感がありました。そのときに初め
て、後ろを振り返つたのです。

なぜ後ろをそれまで振り向かなかつたかと

いうと、後ろを振り向くひまがあったら前を見る。後ろを向くと力が後ろに行く。そういう力があるのであれば、常に全力で前に進むことを意識しなければいけない、という中で私たちは走っていますから。たぶん、後ろを向くという動作というのは、私たちからほかの人を見ても、自分に余裕がなくなるときにする動作、という意識がすごくあるのです。

小出 やはり普段からウソを言っただけじゃない。信用しないんです、この子は。まあ、本番ぐらいは信用してくれるかな、と思っただけ、やはりダメでした。

三十キロ、正確には二十七・五キロからずっと下りなんです。下りは有森の一番得意とするところだから、ここは一つの勝負どころ。そして、町なかに入って、また下るところも勝負どころだと、三つぐらいのポイントを彼女は知っていますから、だからあそこで出た。ただ、いろんな想定をしますと、あそこで出なかつたら、ドーレに負けていますね。ドーレと並んでいいたら、完全にやられていたと思います。ドーレは並んだら、あまり負けたくない選手ですから。ああいう選手とやるときは、中間で思いつき離しておかないと勝てません。

「本当に応援がうれしくて笑顔になる」

北沢 (日本テレビ) バルセロナのとき、

給水の後の容器を、非常に女性的に、足を折って、地面に転がしましたね。あれだけの戦いをしながら、ああいう女性的な行為をするこの人はどういう人なのだろうと、感心したのです。しかし、今度のアトランタでは、平然とボンと捨てていましたね。この差は？

もう一つ、沿道の応援に、終始、ある程度過ぎてからだと思うのですが、笑顔を見せていました。あれは自分に対してのものなのか、応援された人のためなのか。これもバルセロナのときにはなかったと思うのですが。

有森 あのボトルはわりと大きめでステレンスなので、当たると痛い。応援してくださっている方々に当たらないようにするのが、私自身考えていることだったので。今回は転がしても結局当たる位置であったので、頭の上を越すぐらいに大きく投げたのです。一応人がいない、途切れるところで合間をぬって投げる、という意識だけは持ってやっていたつもりです。

そんないろいろな考えてボトルを捨てるのなら、もっと走る方に力を使えば良い、と言われるかもしれませんが、これは速く走る、

走らないという意識、戦っているときの意識とは別です。本当に瞬間に浮かぶ意識の中でやったことなのです。

レースのときに、よく笑っている。これも、笑うひまがあったら走れ、と言われるかもしれないが、本当に、何が力になってそんなに走れているのか、といわれると、沿道の応援なのです。沿道の応援であり、その応援をしてくださっている人たちの姿が、本当にうれしいのです。それに対して、自分の気持ちで表現できるのが、私にとっては笑うということ、笑おうと思っただけで笑っているのではなく、「本当にうれしいな」という気持ちになるだけなのです。たぶん、どなたが走っても、それが走っても、もし自分の目の中にあの声援する光景が入ったら、きっと笑うと思うのです。そういう意識で、私はああいう形になっています。

司会 どうもありがとうございます。このあとまた、苛酷なスケジュールがお待ちです。本当にご苦労さま、ありがとうございます、と申しあげて、日本記者クラブのペーパーウェイトを記念にお贈りします。クラブのイニシャルの入った金メダルです。監督には特製の万年筆です。どうもありがとうございます。

試写会

人工の極ともいふべき大セ
ット。息つくヒマもない銃声
と腕力の交錯。「見せ場」につ
ぐ「見せ場」を、世界的な大
俳優たちが演じる面白さは、
さすがにハリウッドの映画で
ある。

サンフランシスコ湾に浮か
ぶ孤島、ア
ルカトラズ
元刑務所を
主舞台にし
た人質解放
劇『ザ・ロ
ック』は、
こうした面
白さを満喫
させてくれ



カトラズに上陸した脱獄
のベテラン、メーソンと、
お人好しのグッドスピー
ドが、どのようにしてア
ルカトラズ「解放」に成
功するか。
一点、無気味な感じが
するところがあつた。ハ
メル准将たちが脅迫の材
料として、海軍兵器庫か

た。女優の出演が少なく、愛
の告白もほとんどない男性映
画だったが、ショーン・コネ
リー（元英国空挺隊員メーソ
ン）、ニコラス・ケイジ（FBI
I化学兵器専門家グッドスピー
ード）、エド・ハリス（敵役の
ハメル准将）の演技力は、抜

群である。

超大国アメリカの「霸道」に疑問
を持ったハメル准将は、十一人の部
下を率いて、アルカトラズを占領し、
八十一人の観光客を人質にする。米
大統領に対して突きつけたハメル准
将の要求は、その陳謝と一億ドルの
支払い。FBI長官の要請で、アル

ら奪い、サンフランシスコ爆撃に使
おうとする毒ガスである。うす緑の
毒ガスの原液は、昨年春、東京の地
下鉄で使われたサリン・ガスを思い
おこさせた。悪魔につかれたような
ハメル准将に、オウムの悪夢を重複
させて……。

個人D会員 林 理介

●ピジョンボックス●

八月末、東京支局をプレスセンタ
ーの八階から三階に移転しました。
これまでの約一・五倍の広さ、朝日
がさし込む明るいスペースです。

日本の政局の動きや北朝鮮をめぐ
る対応、「O157」騒動と、「東京
発」の仕事に追われる中での引越
しでした。特派員も一人増員となり、
私を含め三人態勢になりました。職
場環境も良くなり、一同、張り切っ
ています。今後ともよろしくお願
いいたします。

なお、電話・ファクス番号は従来
と変わりません。

東亜日報東京支局長 衰仁俊

会員の著書 (ご惠贈いただきました)

戦略家ニクソン 田久保忠衛

(中公新書 七六〇円)

満洲の風 藤原 作弥

(集英社 一、八〇〇円)

スターリンの銀塊 大蔵雄之助訳

(文芸春秋 一、〇〇〇円)

中国の大警告 本澤 二郎

(テータハウス 一、五〇〇円)

寄贈書

日本新聞協会五十年史

日本新聞協会

招待券

左記の招待券をそれ
ぞれご惠贈いただきました
した。お礼申しあげます。

◆朝日新聞社から「クマのプーさ
ん展」「アッシリア大文明展」「知ら
れざるインド更紗展」「ボストン美術
館の至宝展」「世界報道写真展」「ユ
ニセフ創立五十周年写真展」「安野光
雅 平家物語の世界展」「萩須高徳
展」「初代龍村平蔵織の世界」「ジェ
ンダーの記憶の淵から」「手塚治虫
展」◆平野光男会員から「ジョ
ーシ・シーガル展」◆大丸ミュー
ジウムから「ゴッホの『はね橋』
と印象派の巨匠展」「フランス近代絵
画展」

訂正 先号の一面の見出し「ク
ラブの活動に外相表彰」で、ク
ラブがクラグとなっていました。
トップの見出しを間違え
るとは前代未聞。何回も点検した
はずでしたが、不注意をおわび
して訂正いたします。

プロフィール

◇個人D会員（五十音順）

八月一日付入会の個人D会員、法人・個人賛助
会員の方々です。



写真部

写真 栗橋隆悦

(一九八八年産経新聞入社
現在 写真報道局)

「氷柱」のスナップ

この写真は、先月酷暑のある日、上野動物園で写したスナップ写真だそう。連日の暑さで脱力状態のホッキョクグマが、プレゼントされた氷の固まりを抱いて、しばしうっとりとしている図、と写真説明にある。

これを眺めているうちに、私が入社した当時の新聞社編集局夏風景を思い出した。昭和三十年。まだ銀座に社屋があったころだ。冷房はなかった。広い編集局の真ん中に、大きな氷の柱が置いてあって、社員たちは時折そのまわりに集まって、思い思いの方法で体を冷やしていた。氷水で絞った手拭いで裸の上半身をふく人、氷に直接ホッペタをくっつけて、しばしうっとりしている人。氷に張りつけておいた、濡れた原稿用紙をベタッと額に張りつけたまま原稿を執筆している記者たちもいた。

編集局中にただよっていた、男性たちの汗くさい臭いが今でも鮮明に思い出されてくる。

氷の柱が唯一の冷房手段だった新聞社の編集局風景を記録に残しているカメラマン氏はいないだろうか。そんな写真、あったら見せてください。

(深尾 凱子)

会員伝言板のご利用を

ラウンジ入り口に、伝言板としてご利用いただく白板があります。会員の皆さんの連絡やお知らせなどにお使いいただいています。会員が新聞や雑誌などに寄稿された記事や、読んでよかったと思った記事などの紹介にもお使いください。

受付でのご署名をお忘れなく

クラブへお越しの際は、受付に会員とビジターのための署名簿がありますので、かならずご署名いただくようお願いいたします。電話の呼び出しや伝言などの連絡に必要ですので、ご協力ください。

〈法人会員代表変更〉

琉球新報社
 (新) 宮里 昭也 代表取締役社長
 (旧) 親泊 一郎
 文化放送
 (新) 峰岸 慎一 代表取締役社長
 (旧) 小林 正巳
 北海道テレビ放送
 (新) 滝井 禧夫 代表取締役社長
 (旧) 畠山 武

ロッカーの点検をします

ラウンジ側のクローカー内とレストラン前にあるロッカーの点検と整理をします。長期使用されている方は、九月二十五日までに荷物をお引きとりにくださるようお願いいたします。

ゲストカード

第四回アフリカ仏語圏地域記者研修 (フォーリン・プレスセンター)

9・11・9・21) T・D・ワフォモンゴ (カメルーン・トリビュン紙 カメルーン) D・A・モビオ (イヴォワール・ソワール紙 象牙海岸) L・B・シバアスーム (ユニオン紙 ガボン) A・スーアレ (ホロヤ紙 ギニア) M・R・ランドリア ナヴォニ (ミデイ紙 マダガスカル) H・バディス (ル・マタン・デュ・サハラ・エ・デュ・マダレブ紙 モロッコ) S・テイオップ (セネガル・ラジオ・テレビ放送 セネガル) C・シャヘッド (ラ・プレス紙 チュニジア)

訃報

個人D会員の江尻進会員が八月二日、松井章会員が二十二日、佐藤紀久大会員が二十八日、吉武信会員が三十日に死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

会員現況

法人会員 一五〇社 基本会員 八二二人 個人会員 一、八四二人 法人・個人賛助会員 六六社 二〇八人 特別賛助会員 五一人 名誉会員 一四人 計 二一六社 二、九三七人

九月の行事 (5日現在)

- 11日 (水) 正午～午後1時50分 橋本龍太郎 首相昼食会
- 13日 (金) 正午～午後2時 細川護熙元首相 昼食会
- 午後5時30分～7時30分 試写会 「学校2」
- 17日 (火) 午後1時30分～3時30分 見学会 「東京湾横断道路」
- 19日 (木) 午後2時～3時 メレス・エチオピア首相記者会見
- 午後4時30分～5時30分 志位和夫 共産党書記局長記者会見
- 20日 (金) 午後4時～5時 ハワード・オーストラリア首相記者会見
- 27日 (金) 午後3時～4時 西岡武夫 新進党 幹事長記者会見

(行事案内電話) 〇三三三五〇三二一三七六(四)

会報委員会

委員長 齋田 一路
 委員 田村 欣也 村上 紀子 小倉 貞男
 川内 一誠 塚越 喜昭
 連絡 長谷川 河野 (事務局)
 (電話) 〇三三三五〇三二二七(二二)
 (FAX) 〇三三三五〇三二七(二二)